理論訓示 第１回
『できなくても、考えた分だけ、かしこくなる』とは？

できなくても考えた分だけ賢くなる。これはパズル道場においてとても大事な言葉です。皆さんは、この意味を知っていますか。できなくても一生懸命考えて頭を使えば、使った分だけ賢くなるという意味ですね。しかし実は、もう一つ深い意味があります。この深い意味を理解するとさらに賢くなりますので、今日はそれについて説明します。

学力というのは、知識分野と感覚分野に分かれます。感覚のことを英語でセンスといいます。皆さんもセンスがいいとか悪いとか聞いたことありますね。普通、学校や塾でお勉強することは、この知識分野がほとんどです。感覚分野はあまりお勉強しません。

そして、この感覚分野の中で最も大切な能力が思考力であり、この思考力をトレーニングするのがパズル道場なのです。

では、思考力を高める上で最も大切な事は何か？

最も大切な事は、あーでもない、こーでもないと粘り強く考える時間なのです。難しくてできない時間が必要なのです。

できなくても考えた分だけ賢くなる。さあ、この深い意味をもう一度まとめます。思考力は、ねばって考えた事で身につきます。たとえできなくてもねばって考えた分だけ思考力は身につくのです。

問題ができないからといってすぐ諦めたり、ああもう駄目だというふうに暗い気持ちになったり、なんでできないんだろうという気持ちになったり、そういう考え方は全て間違ってます。できない問題がやってきたら、よしきたぞという気持ちで、にこにこしながら問題と戦ってください。何回でも何回でも戦ってください。でも、ちょっと疲れたら一度その問題はお休みして、また別の時間、また別の日に挑戦すればいいんです。

では今日もたくさんねばってかしこくなりましょう。

理論訓示 第２回
パズル道場の取り組み方

パズル道場には二つの取り組み方があります。
一つはスピードを意識して取り組む場合と、もう一つは、じっくり考えて取り組む場合の二つがあります。
スピードを意識して取り組む場合ですが、もう少し詳しく言うと、できるだけ速く解こう、という気持ちをつねに意識して取り組むということです。ただし、スピードを意識すると当然ミスが増えてきます。じゃあミスしていいのかというと、もちろん駄目です。ですからスピードを意識しながらも、ミスをしないようにしようという気持ちを普段以上に、持たなければならないのです。
もちろん最初からうまくはいきません。最初、スピードを上げようとするとミスが増える。ミスを減らそうとするとゆっくりになっちゃう。これを自分なりにどうしたらいいかと頑張って、作戦を考えて両方ともできるように取り組むことが大切です。
もう一つの取り組み方は、じっくり取り組むことですね。これは、あーでもない、こーでもないと何度でも諦めないで粘り強く取り組むということです。そして、余裕ができたら自分の作戦を考えるということです。このねばり強く考えることと自分の作戦を考えることは思考力を身に着ける上でとっても大切なことです。
そしてパズル道場のプログラムはスピードを意識して取り組む時間とじっくり考えて取り組む時間に分かれています。今、どちらをやるべきかこれがわからないときは先生に聞いてください。それでは、頑張ってください。

理論訓示 第３回
イメージ化能力と空間認識能力

パズル道場のプログラムの半分ぐらいは立体図形をトレーニングするプログラムになっています。ですからこのプログラムに取り組めば立体図形に強くなります。しかし本当の目的は立体図形に強くなることではないのです。本当の目的はイメージ化能力を高めることなのです。イメージ化能力というのは書かないで頭の中だけで考えて答えを出せる能力のことです。そしてこのイメージ化能力を高めるにはいくつかの方法があります。そのうちの最も重要な方法がこの立体図形のトレーニングをすること、もう少し言い方をかえると空間認識能力のトレーニングをすることなのです。

それでは空間認識能力とは何か。立体をイメージする能力ですね。実際に目の前に立体の実物があるわけではないんだけれども、それを平面に表した図、展開図とか見取り図とかそういうものを見て立体をイメージする能力です。

実はこれは、お勉強だけではなく皆さんが大人になってから、さまざまな分野でお仕事で役立ちます。一番有名なのはお医者さんです。レントゲンって知ってますか。レントゲンというのは平面ですね、その平面の画像を見て実際の立体の体を想像する。これはまさに空間認識能力です。この能力を高めると勉強だけではなく、さまざまなことに役立つということなんです。スポーツにもたくさん役立つんですよ。

さらに空間認識能力で大切なのは分解や合成をするということです。実際には分解されてないものを分解したり、合成したり、合成というのは合体ということですね。それを頭の中でイメージする能力です。

さて、パズル道場にはこの空間認識能力を高めるためのさまざまな秘密の学習法があります。秘伝というやつですね。

でも秘密といっても実はみなさんはもう普通に授業でやっています。では一体どのトレーニングがこの秘伝なのかこれについてはまた改めて説明しますね。

それでは頑張ってください。

理論訓示 第４回
パズル道場の３本柱① パズルオリンピック

今回はパズル道場の三本柱についてお話します。一つ目が、皆さんが一番よく知っているパズル道場検定です。このパズル道場検定の効果をさらに高めるもの、それがあと二つあるのです。一つがパズルオリンピック、そして最後が懸賞問題です。それを一生懸命やっている人は、今までよりも明らかに速く、また、今まで到達しなかったレベルまで能力が高まるようになりました。今日は二つ目のパズルオリンピックについて詳しく説明したいと思います。

まずは、パズルオリンピックの目的をお話しします。1 番目、ベーシックトレーニングの内容をさらに深める。パズルオリンピックに出題されている内容のほとんどは、ベーシックトレーニングの内容なのです。ベーシックトレーニングは普段教室で、プリントやテキストを使ってトレーニングしていると思います。でも、このパズルオリンピックというのは Web ですね。紙でやって育成される能力と、Web でやることによって育成される能力。これは、それぞれ違ってくるのです。ですから授業のベーシックトレーニングを一生懸命やって、そして、このパズルオリンピックの Web でのベーシックトレーニング内容をやるとさらに深まるのです。

では 2 番目、スピードと正確性を高める。このパズルオリンピックはいかに速くできるかということでタイムを競い合います。もっと速くやろう、もっと速くやろう、何度も何度もそういう気持ちで取り組むことで、だんだんスピードは速くなります。

でも指定された問題を一問でも間違うと、その瞬間、時計は止まる。ですから一問も間違うことはできない、そういう気持ちで取り組みますのでケアレスミスというのがどんどん少なくなっていきます。

最後に三つ目ですね。もっと大切なのがオリンピックに向けて練習することなんです。どうすればスピードアップができるか、どうすればケアレスミスが減るか。そして、どうすれば勝てるか。こういうことを自分なりに考えて自分の作戦を見つけてやることなのです。これがとっても重要なのです。

Web トレーニングでパズルオリンピックの練習はいつでもできます。それでは、頑張ってください。

理論訓示 第5回
パズル道場の3本柱② 懸賞問題

今回は、パズル道場の三つの柱の一つである、懸賞問題について詳しく説明します。懸賞問題の目的とは。粘り強さのトレーニングです。この懸賞問題というのは、ローテク問題の中の難しい問題を選んでいます。ローテク問題は別の言い方で、根性問題とも言います。ローテク問題というのは特別な知識や公式や解き方、そういうものを覚えてなくてもその場で考えて、あーでもない、こーでもないといろんなやり方を考えて挑戦すれば、なんとか答えにたどり着ける場合がある。これがローテク問題です。

粘り強さをトレーニングする上では、このローテク問題、そしてやや難しい問題。これをやるのが一番いいのです。そのほとんどの問題は中学入試で過去に出題された問題、が選ばれていますから中学入試の対策にもなっています。

そして、この懸賞問題のやり方として重要なことがあります。いつも以上に時間をかけるということです。一つの問題を何度も何度も少しずつでいいですから、時間をかけて間をあけて挑戦する。これは授業では絶対にできないことです、時間がないですから。このようにやるのが、この懸賞問題の目的なのです。授業中にちょっとやって、もう時間がないからといって、多分、こんな感じかななんて適当に考えて答えを入れちゃう。そんなやり方をするんだったらやらないほうがいいです、時間の無駄です。

懸賞問題のやり方、これは絶対に間違わないでくださいね。たった一問やったぐらいでは、ほとんど効果はありません。でも、月に一問、こういう時間を1年間、2年間、3年間繰り返したときには通常の授業では絶対身に付くことができないすごい力、思考力ですね、考える力。難しい問題を解く力ができます。

それでは、頑張ってください。

理論訓示 第6回
仮説思考力とは

今回は仮説思考力について説明します。パズル道場で育成する最も重要な二つの能力とは何か覚えてますか。一つ目はイメージ化能力。頭の中だけで、図やメモは一切書かないで考える能力です。もう一つが仮説思考力。自分の作戦で考える能力です。

さて、皆さんが自分の作戦を考えるとき、どのようにしますか。突然、そうだ、というふうに思い付いて、それがそのまま素晴らしい作戦の場合もあります。でも、ほとんどの場合は、もしこのようにしたらどうなるかな、これでできるかなというふうに、まず考えますね。このことを仮説を立てる、または仮定するといいます。仮説を立てたら、その後、その方法で本当に答えが求められるかどうかを確認します。この確認することを検証するという言い方をします。そして、次に検証して、それでは答えが求められないということが分かったら、もう一度、別の仮説を立てて同じことを繰り返します。このように仮説と検証を繰り返して適切な作戦を考えられる能力を、仮説思考力といいます。

では、なぜ仮説思考力が重要なのでしょうか。一つは仮説を立てて、あーでもない、こーでもないといろんな作戦をやってみるということは、その一つのことをいろいろな方向から分析してるということになります。そして、いろいろな方向から分析することで、その本質の理解がより高まるのです。本質の理解というのは、そのことをもっともっと詳しく一番基礎のところからきちんと理解できるという意味ですね。

そして二つ目です。自分の作戦を考えないで言われたことだけを覚える人よりも、仮説を立てて検証して自分の作戦を考える人のほうが、たくさん頭を使うから賢くなるのです。それが1年、2年、3年と積み重なっていけば、とっても大きな差になります。

自分の作戦をできるだけ考えて見つけて、たくさんたくさん頭を使ってください。それでは、さようなら。

理論訓示 第７回
空間認識能力を向上させる方法

さて、この空間認識能力を向上させるには特にどのような方法が重要であるか。まず 1 番目、パズル道場マル秘大作戦その 1。平面感覚を向上させるトレーニングを徹底してやるということ。その平面感覚というのは、基本三要素というのがあります。一つ目が平行移動感覚。二つ目が対称移動感覚。三つ目が回転移動感覚。この三つが平面感覚の基本の三要素なのです。この感覚をレベルアップすればするほど立体感覚も上がるんです。空間認識能力も伸びていくんです。

それは平面を重ねていくと立体になるからなんですね。ですからパズル道場では、平面感覚のトレーニングをやってから立体感覚をやる、こういう順になっています。具体的にはベーシックトレーニング、そして Web トレーニングの中にもこの三要素をトレーニングするものがありますので、Web でもこの三要素をトレーニングすると、びっくりするぐらい早く空間認識能力が上がっていきます。

そしてもう一つ、パズル道場マル秘大作戦その 2。頭の中、実物、頭の中、実物これを繰り返すということです。具体的には、まずテキストで立体の問題、空間認識能力の問題に挑戦します。そしたら、その平面の図をにらめっこして、メモとか何も書かないで頭の中だけで考えて答えを出そうと挑戦してください。

にらめっこして全然分からないって思ったら、そのときは一度諦めていいです。その後に、その図を表す実物を使って確認をするんです。さらには少し時間を空けてもう一度やってみます。1 回ぐらいではできるようになりません。何度も何度も何度も繰り返さないとできるようにはなりません。

このように繰り返していくんです。そうすると、いつか実物がいらなくなります。このマル秘大作戦でとても大事なことは、この問題ができればいいというのではなくて、最終目標は頭の中だけでできるようにすること。

それでは、頑張ってください。

理論訓示 第８回
仮説思考力を向上させる方法

今回は仮説思考力を向上させる方法についてお話します。仮説思考力というのは、仮説と検証を繰り返して答えを見つける能力のことです。算数では仮説というよりも仮定という言葉をよく使います。仮説というのは、もしこうやったらどうかな、いや、待てよ、こっちのほうがいいんじゃないかな、でも、このやり方もあるなというように、いろんなやり方をまず考えること。そして、それが本当に正しいかどうか、そのやり方で答えを出せるかどうか。それを確認することを検証といいます。このことを繰り返す能力ですね。
そして、それを別の言い方で言いますと、自分の作戦を考える能力。こういう言い方もします。特にこのパズル道場では、仮説思考力イコール自分の作戦を考える能力であると、こういう言い方をしています。そして、この仮説思考力を身に付けて、どんどんどんどんレベルが上がると難しい問題、特に初めて見る問題への対応力が上がるということです。
それでは、今回の本題ですね、仮説思考力を向上させるには、まず、一つ目、パズルを解くことです。どんなパズルでもいいというわけではありません。パズル道場が選んでいるパズルは、この仮説思考力を向上させるために適したパズルを選んでいます。そして、さらに言うならばできるだけ難しいパズルに挑戦するということです。難しいパズルに挑戦するということは、できない時間がたくさんできるわけですね。そして、できないけれども一生懸命、粘り強く考える時間。このような時間がたくさんつくることができれば、仮説思考力はどんどん向上していきます。
そして、もう一つ。日頃からいろんなことで自分の作戦を考えるということです。算数の問題やパズルを解くだけでなく算数以外のお勉強でも、またお勉強以外のことでも。スポーツでもそうですね。自分の作戦を考えることを習慣とするということがとても大事です。
それでは、頑張ってください。

理論訓示 第９回
パズルオリンピックについて

まずは、パズルオリンピックの目的をお話します。
1 番目、ベーシックトレーニングの内容をさらに深める。パズルオリンピックに出題されている内容のほとんどはベーシックトレーニングの内容なのです。ベーシックトレーニングは普段、教室でプリントやテキストを使ってトレーニングしていると思います。でも、このパズルオリンピックというのは Web ですね、インターネットを使って Web の画面でやっています。紙でやって育成される能力と Web でやることによって育成される能力、これはそれぞれ違ってくるのです。ですから、授業のベーシックトレーニングを一生懸命やって、そして、このパズルオリンピックの Web でのベーシックトレーニング内容をやると、さらに深まるのです。
では、2 番目。スピードと正確性を高める。このパズルオリンピックはいかに速くできるかということでタイムを競い合います。もっと速くやろう、もっと速くやろう。何度も何度もそういう気持ちで取り組むことで、だんだんスピードは速くなります。そして、一問でも間違ったら、その瞬間に時計は止まってしまうのです。もちろん何度かやり直せます。でも、指定された問題を一問でも間違うと、その瞬間、タイムは測定されなくなります。ですから、一問も間違うことはできない。そういう気持ちで取り組みますのでケアレスミスというのがどんどん少なくなっていきます。学校のお勉強やテストでケアレスミスに困っている人、たくさんいるんじゃないですか。それが少しずつなくなっていきます。
最後に三つ目ですね。どうすればスピードアップができるか、どうすればケアレスミスが減るか。そして、どうすれば勝てるか。こういうことを自分なりに考えて、自分の作戦を見つけてやることなのです。これがとっても重要なのです。Web トレーニングでパズルオリンピックの練習はいつでもできます。
それでは、頑張ってください。

理論訓示 第10回
何回やってもできない時

今回の理論訓示は、何回やってもできないな、できないな、何回やってもできないな、という気持ちになったときどうすればいいかというお話をしたいと思います。
心が折れないようにする。もう駄目だ、もう駄目だ、全然できない。こういう気持ちで取り組んだとしたら、もっともっとできなくなります。できるものもできなくなっちゃいます。ですから、まずは心が折れないようにする。では、どうしたらいいか。
一つ目です。できない時間は能力を高める大切な時間である。こういう認識をしっかり持つということ。できないことに困る必要なんかないんです。もちろん、テキストが進まない、検定が合格しない。でも、困る必要はないんです。困るどころか、その時間は賢くなる時間ですね。そのことを忘れないでください。
では次、2番目。何回やってもできない。今回のテーマですね。でも、じゃあ一体何回やったんですか。何百回ですか。何千回ですか。何万回やったんですか。そうですね。何回やってもっていう言葉、これ変な言葉ですね。その人によって基準が違いますね。10 回ぐらいやって、そういう言葉を出す人もいるし、50 回やって出す人もいるし、100 回やっても出さない人もいます。みなさんのやっているお勉強ではあまりないかもしれませんけども、将来、大人になって何かを研究したとき、何かを発見するために頑張ったとき、そういうときは何千回やってもできない、なんていうこともあるんですよ。それをめげないで頑張ってやっと発見してノーベル賞を取ったとか、そういう博士も科学者もいらっしゃるんですよ。ですから何回やってもなんていう言葉は使わないことですね。
はい、そして 3 番目です。気分転換に他の問題をやってみるということです。できないことが素晴らしい時間だということを分かっても、どうしても気持ちが頑張り切れない、疲れてしまうなんていうときありますね。やっぱりできない時間というのはストレスになりますから。ですからあまりそのストレスがたまったときは、気分転換に自分が得意そうな問題をやってみてください。パズル道場は先に進んでいいんです。10 級が受かってないとき、9級や8級の問題を挑戦してもいいことになっています。検定は受けられませんよ、でも日々のテキストはどんどん先に進んでおいて、できたら丸をもらって正解ということにしておいていいんです。
それでは、きょうもパズル道場頑張ってください。

理論訓示 第 11 回
パズル道場検定の目的とは

今回の理論訓示は、パズル道場検定の目的についてです。
1 番目です。受講生の指標となる、ということです。指標という言葉がちょっと分かりづらいかもしれませんので、もう少し分かりやすく言うと、目標をつくるための材料ということです。さらに言うと、ゲーム感覚で取り組むということです。ゲーム感覚というと、なんか遊んでいるような、そんな気がしてしまいますけども、もし一生懸命やっているのであれば、それがゲームのようにやっていても全く問題ないどころか素晴らしいことです。
お勉強をゲームとして、ゲーム感覚で取り組む場合は、真剣に何としても受かろう、合格しよう、こういう気持ちで取り組むんです。これは、遊びのゲームのときでも真剣に取り組むときも、皆さんありますね。その気持ちでお勉強も取り組めばいいのです。
ですから、真剣に取り組むのであればゲームのように考えていいんです。そうすれば楽しく取り組むことができるということです。そして、さらには楽しく取り組めれば長く続けることができます。
それでは次の目的です。二つ目は、合格できない時間をつくるということなのです。
え、検定は合格することが一番大事なんじゃないかな、このように思った人いると思いますけれども、パズル道場の理論が分かっている人は、もうこんなの当たり前ですね。合格できない時間、つまりなかなかできない時間をつくるということは素晴らしいことなんですね。
それをもう少し具体的にいうと、一つ目、レベルアップする。これは、ただやみくもに取り組むよりも、できない時間、できないときにどうすればできるだろう、どうすれば合格するだろう、こういう気持ちでやったときのほうがレベルアップするわけです。
そしてもう一つは、自分の作戦を考える機会となるわけです。どうすれば合格できるか、いろんな方向から考えます。ああやればいいかな、こうやればいいかな。さまざま考えます。これがもし、簡単に合格してばっかりいたら、このような頭の使い方をしませんね。だから、あまり賢くならないのです。できない時間があればあるほど、なかなか合格できないなという時間があればあるほど賢くなるんです。
はい、頑張ってください。

理論訓示 第 12 回
立体四目の正しい取り組み方

皆さん、こんにちは。
立体四目のことを知らない人はいませんね。では、どのような能力が育成されるかを知っていますか。
まず一つ目は、一番わかりやすい、空間認識能力ですね。立体的な教具なのですから、やるだけで育成されますが、特に良いのは、一つの方向からしか見ていないのに別の方向からの見え方を想像することなのです。ですから、見る位置を変えたり、立体四目を動かしながらやると、育成される能力が大きく減ります。
二つ目は、仮説思考力です。具体的には、勝ちパターンを自分で考えることです。いわゆる、自分の作戦ですね。これを誰かに教えてもらったのでは、仮説思考力は身に付きません。できるだけたくさんの作戦を考えてください。あとは、対戦しながら相手の打つ手を何手か先までを予想し、その対応方法を事前に考えておくことです。この先を予想するということは、空間認識能力育成にもなります。
最後は、瞬間判断力です。いくつかの選択肢の中から短時間で、場合によっては瞬間的に判断する能力です。ですから、パズル道場の立体四目の全国大会ルールは、相手が打ったら自分もすぐに打つ、というルールになっています。普段からそのルールで対戦することをお勧めします。ただし、自分の作戦を考えるときは、ゆっくり、じっくり考えてください。この場合は、自分一人でやるか、AI 立体四目アプリのプラクティスモードは制限時間なしなので、そちらで取り組んでください。
つまり、立体四目はじっくり学習とスピード学習というパズル道場の大切な能力育成法の両方に取り組むことができる教具なのです。
立体四目に強くなるには、できるだけ自分より強い人と対戦することと、AI 立体四目に取り組むことです。強くなるということは、先ほどの 3 つの能力がレベルアップしていることです。頑張ってください。

理論訓示　第 13 回
自立と自律①

今日から３回連続で『自立』と『自律』について説明します。
自立と自律ができている人は、思考力においても学力においても圧倒的に有利です。
さらには、自立と自律ができていない人は、高いレベルの思考力や学力を身につけるのは、とても難しいのです。
簡単な内容の時は、自立と自律はあまり関係ありません。
しかし、難しくなった時に、思考力も学力も大きな差が生まれます。
さて今回は、自立と自律の最初の自立について説明します。

自立とは・・・他の人の力を借りないで自分だけの力で行う事です。
では自立できている人とはどんな人でしょうか？
人間は自分１人だけで生きていく事はできません。
自立できている人というのは、何もかもすべてを自分１人でやる人ではありません。
自分でやるべき事を自分１人でやる事ができる人です。

では、これを勉強におきかえて考えましょう。
勉強において自立している人とは・・・
１番目・・・何をやるべきかを自分１人で決められる人。

２番目・・・分からないときは、もっと考えればいいのか？
別の本などで調べればいいのか？先生に質問すればいいか？というような事を自分で考えて正しいものを選択できる人。
言いかえるなら、困った時に自分で対策を考えられる人です。

３番目・・・２番目と基本的には同じ事なのですが、思考力をもっと高めるにはどうしたらいいか？
成績を上げるにはどうしたらいいか？
こんな時に、まずは自分で作戦を考えられる人です。
もちろん誰かに参考意見を聞く事が必要な場合もありますが、まずは自分１人で考える事です。その上で、必要だと思ったら参考意見を聞きます。

それでは今回はここまでです。
次回はもう１つの自律について説明します。さようなら。

理論訓示　第 14 回
自立と自律②

前回は、自立とは、自分でやるべき事を自分１人でやれることである、と説明しました。
今回は、もう一つの自律について説明します。

自律とは・・・？簡単に言うと、ルールを守ることです。
それでは自律できている人とは？・・・
ルールを守れる人です。
別の言い方をすると、ルールを守らなければならないという強い心を持ち、それを実行できる人です。

人間には弱い部分があります。
なまけたくなる時もあります。
ちょっとぐらいなら・・・といってルールをやぶりたくなる時もあります。
ズルをしたくなる時もあります。
そんな弱い自分が出てきた時に、それに負けない強い心で対向して勝てる人。これが自律できている人です。

世の中には、たくさんの誘惑があります。
勉強を予定していた時間に、友だちから遊びに誘われたり、30 分だけテレビを見てから勉強するつもりだったけど、テレビがおもしろすぎて、勉強時間がなくなったので宿題をいいかげんにやったり、難しくてできない時、つい解答を見てうつしてしまったり・・・みなさんはこんな経験ありませんか？
このような誘惑に負けない強い心を持つ事も自律できているという事です。

しかし、さきほども言いましたが、人間には弱い部分もあります。
どんな誘惑にも、絶対負けない人・・・言い変えるなら完璧に自律できている人・・・
今まで、そのような人には出会った事はありません。ではどうすればいいのでしょうか？

まずは、大切な時に自律できるようになる事です。
何が大切で何が大切でないかの基準を決めるのも簡単な事ではありませんが、それでも自分が大切だと思った時は、完璧に自律できるようにがんばって下さい。
それができるようになったら、それ以外の事も自律できるように心がけて下さい。

さて、この『自立と自律』がなぜ思考力に必要か？なぜ学力に必要か？
これを次回の理論訓示で説明します。
それではさようなら。

理論訓示　第 15 回
自立と自律③

３回連続で説明する『自立と自律』。今回でいよいよ最後です。

さて、なぜ自立と自律ができている人は、思考力においても、学力においても、圧倒的に有利なのでしょうか？まずは思考力について説明します。

思考力を高める上で大切な事の１つに、何事においても、自分で考える習慣をつける事があります。日常生活においても、勉強においても、スポーツにおいても、遊びの時も・・・できる限り自分で考える事です。なぜでしょうか？

これは、とっても単純な事です。
考える回数を増やせば増やすほど思考力は高まります。
全ての時間の中で、自分で考えて行動する時間を増やしてください。
誰かに教えてもらうことよりも、自分で考える時間を増やしてください。

さて・・・自立できない人、自分１人ではできない人は、わからないとすぐに誰かに聞きます。それどころか、自分で考える前にお母さんや先生が考えてくれて、言われた事だけをやる人になってしまう場合もあります。
これでは、仮説思考力どころか、考える時間が自立している人に比べて圧倒的に少ないのだから、思考力が高まるわけがありません。

次にもう一つの自律です。
なぜ必要なのでしょうか？
思考力を高める為には、仮説思考力に加えて、ねばり強さが必要です。どんな難しい問題でもあきらめないで、『あーでもない、こーでもない』と試行錯誤できるかどうかが重要です。
もちろん、いくら考えても無理な場合もあります。
それを正しく判断できるようになるには、まずは思考力を高める為の学習方法と、そのルールに従ってやり抜く強い心、あきらめない心、負けない心が必要です。だから自律が必要なのです。

では、学力の場合はどうでしょうか？
思考力が高くないと学力も高まりません。それだけでも自立と自律は重要です。
さらには中学生になるまでに、自分でテキストの解答・解説を正しく活用できるようにならないと、学力を大きく飛躍させることはできません。
正しく活用するという事は、どのタイミングで解答解説を見ればよいかの判断力が必要です。もちろん、ズルして解答を見てしまうことは、絶対にあってはなりません。
それには自立と自律が必要です。
がんばって、自立と自律ができている人になりましょう。

理論訓示　第 16 回
パズルを解くとなぜ思考力が高まるのか①

パズル道場のパズルを解くと思考力が高まります。なぜでしょうか？
今回の理論訓示は、その理由を説明します。
そもそも、パズルとは何か・・・。
パズルとは、複数の条件を同時に満たす答えを見つける問題や教具です。

A という条件と B という条件と C という複数の条件がある時、A という条件にあてはまる数字が１と２と４とします。
その１と２と４のうち、B という条件にもあてはまり、さらに C という条件にもあてはまる数が１だとしたら、１は３つの条件すべてにあてはまる数、つまり複数の条件に同時にあてはまる数ということになります。

今の事をフォープレイスを使って説明します。
このフォープレイスで☆に入る数字は何かを考えます。
最初の条件は赤で囲まれている４つのマスに１～４の数が１つずつ入るという事です。
そうなると３は決まっていますので☆は１か２か４という事になります。

次の条件は、たての４マスに 1～４の数字が入るという事ですが、２と３は入っているので☆は１か４となります。

最後の条件は、よこの４マスに 1～４の数字が入るという事ですが、４は入っているので☆は１か２か３となります。
以上の３つの条件をすべて満たすのは１なので、☆は１となります。

このように複数の条件を同時に満たす答えを考えるという事は、『同時に複数の事を考える』という練習をしている事になります。
この『同時に複数の事を考える』ことこそが、パズルを解くと思考力が高まる理由の１つです。
それでは次回に、この続きを説明します。

理論訓示　第 17 回
パズルを解くとなぜ思考力が高まるのか②

前回、パズルとは複数の条件を同時に満たす答えをみつけるものであると説明しました。
さらには、それに取り組む事は、同時に複数の事を考える練習になる・・・そしてそれは思考力を高めるトレーニングになるという事も説明しました。
今回は、それ以外に以前説明した事を含めてパズルの効果をまとめてみたいと思います。

パズルを解く事は、次のトレーニングをする事になります。

1. 「あーでもない」「こーでもない」と、ねばり強さを強化できます。
2. 「もし、これだったらどうだろうか？」という仮説をたて、それが正しいかどうかを検証する練習ができます。
3. 最初は書いたり消したりしながら解きますが、ある程度解けるようになったら、何も書かないで解くという、パズル独自のトレーニング方法で取り組むと、イメージ化能力が強化されます。
4. パズルは様々な解き方ができるので、自分の作戦を考える練習ができます。
5. 同時に複数の事を考える練習。・・・前回説明した事です。

以上です。
このように、正しく取り組めば、パズルを解くだけで思考力育成の為の 5 種類のトレーニングができるのです。

ただし、どんなパズルでも同様の効果が得られるわけではありません。
パズル道場のパズルは、効果の高いパズルを選んでいます。
さらには算数・数学に必要な思考、とりわけ受験に役立つパズルを選んでいますので、思考力向上はもちろんの事、学力も向上します。

また、１つのパズルだけでなく、たくさんの種類のパズルを解く事で、さらに効果が高まります。パズル道場では、世界的に有名なパズルはもちろん、様々な視点で思考するトレーニングができるパズルをたくさん使用しています。
だからパズル道場は、高い効果が得られるのです。

理論訓示　第 18 回
空気感の重要性

同じパズル道場のプログラムでも、どのような空気感の授業で取り組んだかどうかで、効果は変わってきます。
どんな科目でもそうですが、特に思考力育成の授業では空気感が重要です。

それでは効果が高まる空気感とはどんな状態でしょうか？
それは張り詰めた空気を感じる状態です。
もちろん、おしゃべりをする人はいません。

さらには、そこにいる全員が、できるできないにかかわらず、真剣に取り組んでいる状態です。このような空気感の中でパズル道場のプログラムに取り組めば、さらに高い効果が得られます。

さて、そのような空気感を作るにはどうしたらいいでしょうか？
個別指導の授業でパズル道場に取り組んでいる人は、自分ががんばればいいのですから、とても簡単です。しかし、集団指導の授業では、たった１人がおしゃべりしたり、真剣に取り組まないだけで、理想の空気感はつくれません。
ですから、みなさんの力で、全員の力で理想の空気感はつくるものなのです。・・・簡単な事ではないですね。

パズル道場には、理想の空気感をつくる為のきびしいルールがあります。
とてもきびしいルールです。でも、このルールの目的は、先生が授業をやりやすくする為ではありません。みなさんの思考力を向上させる為のルールです。

くりかえしますが、パズル道場の授業の理想の空気感とは、張り詰めた空気を感じる状態の授業です。
なぜならば、その場にいるだけで集中力が高まり思考力のトレーニングの効果が高まるからです。この事を『場の力』といいます。『場の力』は人数が多ければ多いほど大きな力となります。
そして『場の力』を活用して、さらに思考力をアップさせるのがパズル道場なのです。
おしゃべりしたり、やる気がない人がいたり、わらいながら取り組んだり・・・こんな授業では楽しいかもしれませんが、思考力は少ししか育成されません。
パズル道場の理想の授業とは、理想の空気感で行われている授業なのです。

先生がどんなにがんばっても、全員がこのことを理解して実践しないと理想の授業にはなりません。自分自身のために、そして、同じクラスの人たちのために、理想の空気感の授業を実現しましょう。